

誤嚥性肺炎を予防

専門職の口腔ケアで効果

介護老人保健施設かまくら（神奈川県）が取り組んでいる口腔ケアの効果も、着実に現れている。同施設は3年前から近隣のいがらし歯科医院と連携し、歯科衛生士や歯科医師ら専門職による質の高い口腔ケアを週5日実施。年々、誤嚥性肺炎で入院する入所者さんの数が減少している。



寝たきりの方には2人1組で対応。ひとりが手を添えることで安心感を高める

院から水・土曜に歯科医師、それ以外の曜日に2～3人の歯科衛生士が来所して行っている。

口腔ケアは専用の器具を使用し、口の中を清潔にしたり、口の中の筋肉などを刺激したりするケア。細菌の繁殖防止、かむ・飲み込むなど口の機能維持を目的として行う。同施設は現在、木曜と日曜を除く週5日、食後30分以内と、そのほか日中に1回、口腔ケアを実施。食後のケアは職員が行い、日中1回のケアは提携するいがらし歯科医

の汚れ除去、入れ歯の手入れ、唾液腺の刺激など1人当たりの所要時間は1回5～10分。定員120人の入所者さんを対象としているが、とくに誤嚥性肺炎のリスクの高い入所者さん50～70人には集中的に実施している。入所者全員、1カ月最低4回は行う。

こうした取り組みの成果は顕著に見られ、年々、誤嚥性肺炎で入院する入



100円ショップなどで販売されているグッズを活用し、ケア用具を大切に管理

所者さんの数が減少。また入所者さんのなかには、食事の経口摂取ができるようになった方もいるという。「歯科医師ら専門職による実施が大きい」と、三島眞智子・総看護師長は強調する。提携先の歯科診療所には、院長以外に歯科衛生士が約10人在籍。そのうちの2～3人がローテーションで同施設を訪れるため、専門職による口腔ケアを頻繁に提供できるといふ。

「質の高いケアが行えるのはもちろん、当施設の職員がほかのことに目を向けられる余裕も生まれます。口腔ケアに関する職員への教育面でも助か

っています」（三島・総看護師長）

同施設が口腔ケアを開始したのは2011年5月。同年3月に20人以上の入所者さんが入院し、約7割が誤嚥性肺炎だったことから導入を決断した。「開設以来、最も多くの方々が入院しました」と介護福祉士の澤出義文主任は振り返る。それまでも口腔ケアの重要性を指摘する声が看護師から寄せられたことがあったが、平均入所期間が3カ月と短く、効果が得られるか疑問もあり、導入をためらっていた。澤出主任は「取り組んでから誤嚥性肺炎は明らかに減っています。大切さがわかりました」と自省する。

今後は口腔ケアの対象を通所リハビリテーション（定員60人）にも拡大する意向。澤出主任は「誤嚥性肺炎ゼロを目標に努力します」と目を輝かせていた。